

福岡大学医学部同窓会

1998年秋号
鳥帽子会会報

25
号

- 第17回鳥帽子会総会報告
- 平成10年度福岡大学医学部
研究助成金選考結果発表
- 1回生大平明弘先生
同窓会初の臨床系教授就任

● 目 次 ●

・会長再任挨拶	高木忠博	1
・第17回鳥帽子会総会		
鳥帽子会総会を振り返って	山崎 節	2
鳥帽子会の財政状況	松本直樹	4
福大医学部同窓会総会を終えて	古賀哲二	5
第11回生 学年会報告	安浦美雪	6
・平成10年度福岡大学医学部同窓会 研究助成金選考結果発表		
受賞者と研究テーマ		7
平成10年度 研究助成金選考報告	朔啓二郎	7
・1回生 大平明弘先生 同窓会初の臨床系教授就任		
祝辞	高木忠博	8
教授就任のご挨拶「教室の活躍は、欧米の檜舞台で」	大平明弘	9
Congratulations!!	朔啓二郎	10
祝辞	木村恒二郎	10
・新任教授就任挨拶		
教授就任のご挨拶「志の高い医療を若い人たちと共に」	佐々木悠	11
教授就任のご挨拶「少子化の今こそ小児科医の本領を」	津留徳	12
教授就任のご挨拶「地域との連携を軸に新たな発展へ」	中山樹一郎	13
・特別寄稿		
『卒業生に言いたいこと』	魚返英寛	14
・福岡大学医学部同窓会支部便り		
熊本支部近況	魚返英寛	15
第2回関西支部総会	原吉幸	15
佐世保支部便り	久保次郎	16
・教室紹介		
皮膚科学教室	清水昭彦	17
解剖学第二教室	田中陽子	18
・キャンパス便り		
水泳愛好会	渡辺 隆	19
弓道愛好会のこれから	田坂健彦	19
新しい出発・ウンドサーフィン愛好会	牧野太郎	20
社会医学研究会の現状	武岡宏明	20
音楽研究会	児玉隆志	20
ME研究会	山田隆史	20
・福岡大学医学部同窓会資料集		
第9期役員一覧		21
平成9年度収支決算		22
財産目録		22
平成10年度事業計画及び予算		23
福岡大学病院外来担当医表		24
筑紫病院外来担当医表		25
医局長医長名簿		26
教育職員人事		26
平成11年度福大医学部同窓会研究奨励賞募集要項		27

会長再任挨拶

「近頃こんな事大事のんちゃいますか」

高木忠博（会長・1回生）



最近は世の中、右も左もあまり明るい話が無いようになりました。西暦2,000年も目前の時期に、小生は第9期の会長職を預かる事になりました。自分も含めて日本全体、気分が何か変であります。

そう思って色々物色していました。

『何がこうさせるんかいな』と『何かあるのんちゃうか』と、それは私たち自身の中にも、必ず今の日本社会の雰囲気は心の中の一部にあるように思うのです。そのキーワードの一つがその昔「孟子」さんが梁惠王章句の中で言っている「不失恒心 不守恒産」という言葉です。

この言葉の説明は『恒産なくして恒心あるものは惟士のみ能くするをなす。民の如きは、すなわち恒産なければ困って恒心なし。いやしくも恒心なければ困って恒産なし。いやしくも恒心なければ放辟邪侈（ほうへきじやし）なざるなきのみ』と説明しているそうで、ナカナカ今のご時世には含蓄のある言葉のように響きます。

何でもあの吉田松陰さんも講義（講孟割記）の中で、一言「この一句にて士道を悟るべし」と言われたとか。

この中の『恒心』とは理念、理想とかの意味で、『恒産』とは地位、財産、肩書、勲章とかの意味だそうです。

今は「恒産」は必死で守り、「恒心」は理解しているが、実際は無視で行っているのが実状ではないかと思います。

「責任」という「リスク」を「個人」から「組織」へ巧妙に転嫁して、コストや社会的影響に『社会化』されるようにしてしまい、いつの間にか『個人の責任』はどこかに風化してしまい、“そして誰も責任は

取らなかった”という結末が、今の日本の官公庁、金融、教育等の現場での出来事（スキャンダル）を説明できるのではないかと思います。

その結果に生まれたことは、この国の品格を支えてきた「徳目」の中の「覚悟」と「勇気」が消失し、そのかわり「臆病」が「慎重」と言う言葉に言い換えられる世の中になってしまった結果だと思いますが、皆さんは如何思われますでしょうか。

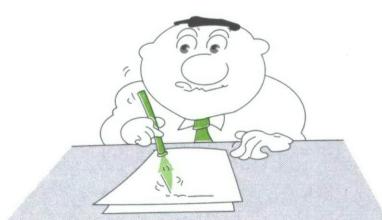
小生は、我々の同窓会は、常に責任の所在を明確にしていく代わりに、決定権限も明確になっている組織に育てて行きたいと思っています。

又、「リスクの社会化」のもう一つの弊害は「個人の熱心、組織の怠惰」を生み出す事です。誰一人として一步前へ出ようとしません。一步前へ出ようとしない事が『美德』になってしまっていると思うのです。これがひどくなれば「全員パーティーしながら沈んでしまう」といわれる『タイタニック現象』が発生してしまうと思います。

我々の組織にもこの社会現象の風は吹いて来ており、知らぬ間に『リスクの社会化』を行っていないかを十分チェックしていく必要を感じます。

本期は『会費』についてメスを入れようと思っています。

皆さんがぜひ一步前に出て『勇気』を持って戴いて解決を計りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。



第17回鳥帽子会総会

鳥帽子会総会を振り返って

山 崎 節（17回総会実行委員長・1回生）



第17回総会を「担当幹事学年制」とする事が高木執行部より平成8年の評議員会で示され、その責任者となったものの、昨年の総会が医学部・病院の25周年記念事業と合体し9月に開催された為、実際に総会の準備に取りかかったのは11月頃になっていました。福岡地区在住の1回生高木忠博君、権藤公和君等数名と11回生の畠山定宗君、武末佳子君など有志に集まっていたり話し合った結果、開催日は平成10年7月14日、会場は西鉄ソラリアホテルと昨年12月までには決定し準備に取り掛かりましたが、今年の2月に当初企画していた「パネル・ディスカッション」の構想が不調に終わり、企画が暗礁に乗り上げてしまいました。新たに1回生の古賀哲二君、権藤英資君の2人が加わって、「有名講師による文化講演会」を開催する企画に変更し、鳥帽子会初の「前売りチケット制」を探って、従来の3倍の出席者の動員を目指し、総会並びに同窓会活動の活性化を計る事となりました。

実施日まで5ヵ月しかない状態で、いくつかの伝を頼って講師の人選に入ったものの、「医学部同窓会」の講演会の講師としての「品位」があり、聴衆を集めることができる「有名人」で、なおかつ「話がおもしろい」講師となるとなかなか決まりらず、講演料の問題も絡んで、3月下旬にやっと「法政大学教授田嶋陽子先生」が決まった次第でした。当日講演会の司会をしていただいた、フリーアナウンサー（大野城市女性センター館長）林田スマさんにも講師選出の段階から色々とお世話になりました。

担当学年の1回生には活動資金として寄付を募り、95%の同級生からの協力を得ることができました。一方11回生も全員がチケットを購入することで担当

学年としての責務を果たしていただく事となりました。

チケットの販売につきましては、各支部の1回生・11回生を中心に行なった結果、予想以上の500枚余り（11回生分を含む）も購入していただきました。しかしながらお膝元で最も多くの会員を有する大学病院勤務者へのチケット販売が、予定を大きく下回ってしまったのは今後の課題となるでしょう。これは実行委員会と学内担当者との意志の疎通が十分でなかった事もその原因と考えられ、実行委員会への大学勤務者の組み込みは必須の事項だと思います。

前売りチケットは売れたものの、実際何人の会員が出席されるのか最後まで我々を悩ませました。

7月11日となり、総会の時点でも例年より若干多く出席されている印象がありました。予定より10分余り遅れて始まった特別講演には多数の女性会員を始め、御家族も参加され、会場はほぼ満席となったようです。

我々が時にお世話をする「医学講演会」では、60分の口演の後質問で90分というパターンが多く、今回も同様の感覚で講演を依頼したのですが、世間一般的の講演会では90～120分口演が普通らしく、田嶋教授も（前日アフリカから帰って来られたばかりというのも影響したかも知れませんが）やっと調子が出てきたのが始まって40～50分たってからで、話としても時間不足の尻切れとんぼ気味に終わってしまいました。これも今後「文化講演会」を開催する場合の参考にしていただきたい事項です。

懇親会にも同様に多数出席いただきました。ゆったりとした会場で料理も飲み物も十分な物が準備できましたと思っております。

同窓会事務局でまとめさせていただいた資料によりますと、当日の出席者は180名余りで、前売り状況からすると3割程度の出席に終わったようです。当初の出席者3倍増、350～400名動員には至りません

でした。中でも担当学年の1回生・11回生の皆さんには多数出席していただき、総会を大いに盛り上げてくれたことは、実行委員会として非常に感謝しております。

今回の結果を参考にしていただき、来年度以降の総会担当学年の皆さんには、更に色々なアイディア

を出していただいて、多くの会員が出席したくなる同窓会総会の企画をお願いしたいと思います。多くの人が集い話す事で、今後更に烏帽子会自体の活性化が実現できるよう、頑張っていただきたいと思います。



熱心な参加者で埋まった総会



なごやかに行った懇親会



烏帽子会の財政状況

松本直樹（同窓会理事・3回生）



拝啓 同窓生の皆さん、こんにちは。このたび財務担当理事となりました三回生の松本です。ところで烏帽子会の資産がどれほどの額か、皆さん御存じですか。流動的ではあるのですが、ほぼ8,000万と御記憶ください。これを年利回り5%で預金していた時期には毎年400万の利益が得られ、同窓会の年間予算をほぼまかなえる状況も過去にはあったのです。ところが、昨今の金融不況のあおりで利息収入はすすめの涙です。逆に同窓会事業は年々盛んになり、各方面から高く評価されるようになり、執行部のモチベーションも揚がる一方なのですが、…………。

同窓会名簿の有料化などいろいろと経費削減をしたところで会員数の自然増加による事務諸経費の増加、生命保険紹介収入の落ち込み、終身会費納入率は90%に達し収入財源もしりすぼみなのです。もう小手先の切り盛りでは全く耐え切れなくなり、事業活動を現在のままに押さえ込んでも、年間負債額は400万以上となり20年で資産を食い潰してしまう計算になるのです。もしやがて景気が回復し金利が上昇すれば8,000万の資産は（年間400万の利息）何よりも変えがたい打ち出の小槌なのです。

理事会、評議員会では徐々に現状に対する理解は深まってきています。すなわち終身会費とは別に会員の皆さんより年会費として別途净財を徴収してはという考えです。しかしながら、一度終身会費を払いながら今度はまた年会費復活と言わされたら一員としてこれほど腹の立つことはないでしょう。「詐欺だ」とさけびたくなると思います。我々執行部は、同窓会員の気持ちを思うとなかなか言い出せないでいるこのことにいつも頭を悩ませています。

そこで出た結論は我々烏帽子会の理念、将来像を会員の一人一人にしっかり認識してもらう以外にな

いではないかと言うことです。我々烏帽子会の特徴は、全ての同窓生が同一職種（医師）として存在し、表現は悪いのですが縄張り社会の中で大学病院を含む、一括りの福大出身の医師集団として単一の評価を受けやすい立場にあると言うことです。これが同窓会の役割が会員同士の友好と親睦だけにとどまることができない最大の理由だと思います。いわゆる同族意識です。我々の大学に対する最大の願望は福大の全ての組織が社会的、医学的に全国で傑出した高い評価を受け、その活躍の中心が同窓生であるという姿です。さて、母校の現状やいかに？自己改革能力、自浄能力、新陳代謝、ユニークさ、柔軟性、若々しさ…………あえて各論は申しません。現在、大学執行部も若い教授陣からも現状の窒息状態の大学に対し、烏帽子会の大いなる貢献を求めつつあるのも事実です。逆に言えば、今まさに同窓会が胎動を始める絶好のチャンスなのです。同窓会の活動はボランティア精神、正義感、同族意識が根幹をなし、医師の信条とも合致するものと考えます。知恵をしづり、汗をかき、淨財を効率良く運用し、母校のために大きな力となろうではありませんか。

今後とも同窓生諸氏の御理解と御協力を賜りますことを心よりお願いし私の稿を閉じます。

敬具

註）財政関係の資料は、22ページに掲載しています。



福大医学部同窓会総会を終えて

吉賀 哲二（吉賀整形外科・1回生）



1回生にとって、厄介なれど胸高なる事業であったと思う。

近年、歳も食ってくると母校への想い、後輩への想い、etc.、老婆心（いや老爺心かな）が脳内徘徊に飽きて外出する機会をうかがっていたこともあり『よし、この機に鳥帽子会の認識と絆をもっと高めよう』と息巻く。

まずは、如何に参加意識の昂揚を促進するか、企画の構築時間の猶予は多くない。会場の変更、チケット制の導入、特別講演会等々、2月下旬の実行委員会で一先ず決定し、軽快なスタートではあった。講師も、丁度その時期講演で春日市に見える、鳥越俊太郎氏に照準を合わせ、林田スマ氏の口添えもあって順風かに見えた。

しかし日程の調整がつかない、直接の交渉で挫折。それからは、桜井よし子、永六輔、イルカ、オスギとピーコといった諸氏面々が消えてゆく。それもそのはず条件は講演料が安く、人が集まる著名人である。なかなかそのようなうまい話はない。連日の情報収集、連絡で期は迫る。緊急会議の招集、北野たけしとのトークコンビで名を売った法政大学教授の田嶋陽子氏が何とかなりそうとの情報を入手、さっそく確認、やや割高であるが時間も迫る……『決定』である。何とかチケット発注期限には、すべり込みセーフとなった。

1週間後チケットサンプルも届き、何とか一息とサンプルに目を通す。

『鳥帽子会総会』…何か変だ？ カラスがトリに化け

ているではないか、大至急校正の連絡。すったもんだもここでやっと決着した。それからは、各支部実行委員と共同幹事である11回生との連係によるチケット販売の奮闘が続いた。

ともあれ、準備期間も短く心配していたが、当日の例年には多くの参加者と盛り上がりを目の当たりにすると素直に喜べた。そして懇親会終了後、我々は場を移し、久々のナナニイ会（72年度入学同窓会）の面々（写真）との語らいと酒宴に心地よい一日が経過していった。

自分達の思い出作りが、我が母校『福岡大学医学部』の更なる発展と同窓の深い絆結びに少しでも、寄与できたら幸いである。そしてその成果はバトンタッチする次代の皆々と共に長く見据えてゆこうと思っている。



第11回生 学年会報告

案 浦 美 雪 (安浦クリニック・11回生)



7月11日9時より警固のQuattroにおいて11回生の学年会を行いました。参加人数は41名で卒業後10周年に相応しい盛り上がりを見せました。特に今回は県外からの参加者も多く、また

事情により総会のみ出席した人を合わせると学年の半数近くとなり、本当に10年振りの再会も多々ありました。また今回1回生とともに11回生は総会の幹事学年であった事から、会の始めに1回生の幹事の先生方にも御参加、御挨拶をいただきました。(1回生の先生、ありがとうございました。)

ともあれ、卒後10年経ちますと、院長、医長となった者、父親母親となった者、あるいは外見が少し変わった者などなど、様々な変化があったと思われます。それが会が始まって30分もしない内に、皆学生時代に戻ったかのように話がはずみ、中には議論

に発展して、相変わらずの“のり”を満喫したのではないかでしょうか。(写真参照)こうなったら2,3時間で終わるはずもなく、3次会(30名程)4次会(10名程:最後は短い夏の夜は終わっていたそうです)と流れていきました。そして、会の終わるたびに「5年後に会いましょう。」の言葉が聞こえていました。

最後に11回生の皆さん、今回出席できなかった方々も含めて次回は是非参加して下さい。



平成10年度福岡大学医学部同窓会 研究助成金選考結果発表

助成金受賞の言葉



パンコマイシン耐性MRSAの感染経路と 耐性変化に関する研究

こういうものを戴くのは生まれて初めてなのでとても嬉しいっています。しかしそれを上回るプレッシャーも感じています。今後これを励みにして、ご指導戴いている永山教授のご指示を仰ぎながら、これを誇りにできるよう頑張っていきたいと思います。

原賀 勇壮
(大学院生微生物学・16回生)



心房細動に対する高周波カテーテルアブレーションの 有効性に関する基礎的・臨床的研究

現在大学病院の第二内科で循環器、その中でも主に不整脈を専門に診療にたずさわっています。不整脈治療には薬物療法並びにペースメーカー療法とありますが、最近では不整脈の根源をカテーテルを使いまして電気焼灼する、カテーテルアブレーションという新しい治療を盛んに行っております。それでいろんな不整脈が治るようになりましたが、心房細動はその治療法でも仲々うまくいきません。その心房細動をうまく治療したいというのが、今回戴きました研究助成金の研究目的であります。今後とも一生懸命研究並びに診療に従事して行きたいと思いますが、もし先生方の中で心電図が判らないとか、或いは不整脈の患者さんで治療にお困りの事があれば、いつでも私の方に相談いただければ少しはご恩返しができるのではないかと考えています。どうも有り難うございました。

熊谷 浩一郎
(講師内科第二・7回生)



光感受性物質（ポルフィミーナトリュウム、merocyanine540、他）を用いた超音波化学療法による白血病細胞の殺細胞効果について、colony assayを用いて証明を行う

今回は栄誉ある助成金を戴きました誠に有り難うございました。他にも良い研究をおやりの方がいましたが、その中で選ばれたことを大変嬉しく思っています。今後はこの研究が新しい癌治療の分野で素晴らしいものになるのではないかと、そういう期待を込めてやっています。皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願ひします。

内田俊樹
(研究生内科第二・10回生)

平成10年度研究助成金選考報告

朔 啓二郎 (選考委員会代表・1回生)

平成10年度研究助成金選考委員会を7月4日、医学部会議室にて行いました。昨年の4件の応募に対し、今年は13件の応募がありました。研究内容に関して、通常の研究手段等に基づいた研究計画から、新しい概念の提案まで、幅広い分野で応募いただいた事に、選考委員会としてとても嬉しい思っています。本年度3名の先生方が受賞されました。来年度からは、助成金枠をもう少し拡大するよう理事会に働きかけていく方針です。選考委員会で論議の中心になる事は、研究内容の独創性やレベルのみならず、選考基準の設定についてです。

本来、40歳未満、もしくは、卒後10年以内の若手研究者を対象にしている中で、応募者の過去の業績

を重視した学術賞的評価で選考するか、または過去の業績には特にこだわらない純粋な研究助成を行つか、つっこんだ意見の交換が昨年同様ありましたが、今年度は上記2本だけで委員会の良識をもって選考しました。同窓会に特色された選考基準を目標にするという、選考委員会の一一致した方針の中で、選考規準が今後若干変化することもあると思います。また、同窓会の基本となる各支部会からの推薦等も考慮する方向で一致しました。

来年多くの応募を期待します。応募される時、必ずワープロを用い、関連する過去の業績および推薦状等提出されるようお願いします。

(選考委員会：高木、林、二見、大慈弥、木村、上村、朔)

1回生大平明弘先生 同窓会初の臨床系教授就任

祝 辞

高木忠博（会長・1回生）

大平明弘君が、今回国立島根医科大学の眼科学教授に就任された事は、福大同窓会にとって大変な慶事と思います。

島根医科大学には、先に全国最年少法医学教授として我が同窓5回生の木村恒二郎君が着任しており、その同じ大学に大平君が着任したのも何かの縁かも知れません。

思い返してみると、大平君の今日の教授就任までの道程は、全くの初体験の連続だったと思います。

福大に在局していた時に、突然のDuke大学、アメリカーマン教授からの招待状、意を決しての留学、そして帰国時の京都大学眼科学教室に入局の為の試験、大学教育者として残る為の努力、その後の京都大学卒大学院生の教育者としての豊かな経験、長崎大学での助教授としての教室運営責任者としての色々な苦労、体験等を基に、大平君が教育者、研究者、運営責任者としての資質を蓄積していった結果が、今日の教授就任に繋がったのだと思います。

その環境の中、大平君の心の中で育まれた資質のうち最も鍛錬されたことは、『自立心=独立心』だったと思います。全く自分の能力を自分自身で信じるほか何もない状況で、淡々と目標に向かって進んでいく姿は、我々に大事な教訓を残してくれたと思います。

“依頼心”を完全に制御した姿、それが一つの事を完結した今の大平君の姿だと思います。

又小生は彼が最終的に入局した京都大学の懐の深さも感心した事柄の一つです。福岡大学医学部という新設大学卒業生であっても、何ら差別も無く能力を客観的に公平に計り、意欲ある人間を大切に育てる雰囲気は、小生には大変羨ましい大学の気風と思われました。

第一級の大学のこの懐の深さが、ノーベル賞受賞者を多数輩出する所以かと思います。学問を志す人間の『能力』『気力』『胆力』を見抜き、それをどの

よう伸ばせばよいかを見抜くことのできる『本物の目利き』が一級の大学には居るのだと思います。もし、大平君が京都大学以外の大学に入局していたら、今の大平君はもしかすると居なかつたかもしれませんとフト思うのです。

振り返ってみると、大平君は本当に幸運な道を歩いていると思います。第一級の本物の世界に接することの出来た幸運です。何が一流なのかを知っている数少ない同窓生の一人だと思います。今度は我が福岡大学が第一級の大学になるためのノウハウを、母校のためにフィードバックして貢えたらと切に思います。

一般的に、自分の姿は中にいるより外から見た方が客観的に見えると言います。人間は大体他人から自分の事について色々言わると『ムカっ』とするのが一般的ですが、そこで冷静沈着にその意見に耳を傾ける事が非常に大切だと思います。もし、その意見を言う人間が、相手に対して何も関心がなければ意見など言う必要もないし、むしろ言わないのが当たり前です。相手に対して厳しい意見を言うことは、相手にもっと発展して欲しいと言う心情が根底にあるからだと思います。当事者の我々よりもっと熱いナショナリズム（情熱）を彼は持っているかもしれません。

大平明弘教授が同窓生の中にいることは、我々同窓会にとって力強い仲間が生まれたことになります。今後島根医科大学の中で自分の持つ個性を十分に光らせて、我々も共に胸を張れる業績を上げてくれる事を切に希望して祝辞とさせて戴きます。

本当におめでとうございます。

教授就任のご挨拶 「教室の活躍は、欧米の檜舞台で」

大 平 明 弘 (島根医科大学眼科学教室教授・1回生)



瀬戸川朝一教授の後任としまして、平成10年8月1日付けで島根医科大学眼科学講座を担当させて頂くことになりました。

私は1978年、福岡大学を卒業後、福岡大学医学部眼科学教室、大島健司教授のもとに入局しました。

臨床研修の後、増殖性網膜硝子体症における網膜グリア細胞の関連について第一病理の菊池昌弘先生にもご指導をいただき、大学院を修了しました。

1987年から1990年まで、アメリカ合衆国ノースカロライナ州にある、DUKE大学に留学しました。ここ的眼科を主宰していたRobert Machemer教授は、硝子体切除術を開発した人で、20世紀後半の眼科学の歴史に燐然と輝く素晴らしい業績を積み重ねていました。眼科入局当初から憧れの人でしたが、幸いにも留学の機会を得ることが出来ました。

Machemerは1960年代後半よりサル眼に実験的網膜剥離を作成し、増殖性網膜硝子体症の発症機序や治療について精力的に研究を行っていました。実験的成果を臨床に反映させた優れた研究家であり、臨床家がありました。また教育熱心で、硝子体手術の普及に努めています。私が留学した80年代後半のアメリカ、ヨーロッパでは硝子体術者の大半は彼の弟子でした。従って、私の臨床と研究に対する基本姿勢は基礎的研究に裏付けられた臨床であるべきだと考えていました。留学中は網膜血管新生と網膜グリア細胞の関係の研究を続行すると共に血管増殖因子、活性酸素の役割と次第に研究領域が広がってきました。またこの間、外来と手術の見学に携わることが出来ました。

Machemer教授の推薦で帰国後は京都大学医学部眼科学教室、本田孔士教授のもとに入局させていただきました。和歌山赤十字病院という関西でも有数の手術件数を誇る病院で人工水晶体移植術のトレー

ニングを受けました。京都大学では、網膜剥離復位術、硝子体手術、人工水晶体移植術、緑内障手術を主体に、研究面では形態学部門を率いて、網膜虚血一再灌流障害や網膜光障害の研究を行いました。本田先生の推薦で、1993年、長崎大学医学部眼科学教室、雨宮次生教授に採用していただきました。長崎大学でも培養系の仕事も加味し、電顕、免疫組織化学を主体に網膜虚血の研究を続けました。今回縁あって島根医科大学への赴任という幸運に恵まれました。ご存じのように法医学の木村恒二郎先生が教授としてご活躍です。この5年間培われた木村先生のご人格のお陰で、私も島根への切符を手に入れることができました。

これまで多くの先生方にご指導いただき、また良き同僚、後輩に恵まれ今日に至っています。この幸運を医局員一同に分かち合うことにより、教室の活躍の舞台は欧米の檜舞台になるよう努力したいと思います。臨床面では網膜、硝子体という高度先進医療に対応し、研究では網膜の再生を目標に、また教育面では一人でも多くの人材を輩出できるよう、医局員とともに努めていきたいと思います。最後になりましたが福岡大学医学部の今後、益々の発展をいのり、就任のご挨拶に代えさせていただきます。



Congratulations!! 大平明弘教授

朔 啓二郎（福岡大学内科学第二・1回生）



昭和53年に63名が福岡大学医学部第1回卒業生として社会に出たのですが、その中から初めて、臨床系教授が誕生しました。大平明弘君は、福岡大学眼科学教室をかわきりに、米国North Carolina, DurhamにあるDuke大学に留学、帰国後は和歌山日赤病院、京都大

学、長崎大学と転々とされました。今回、島根医科大学の教授に決まり、一安心されたことだと思います。彼が決まった日、すぐに祝電を送ったのですが、色々な意味で本当によかったと思ってます。

得意とする網膜虚血、再かん流障害や網膜光障害と生体防御因子の分野では、彼の業績は驚くものがあります。2、3年前、血栓性疾患におけるある種のリポ蛋白の遺伝子型を解析していた時ですが、偶然彼から電話があり、網膜静脈血栓症患者のそれもつ

いでにみてくれのこと、すぐに共同研究を組んだことがあります。やはり、同級生は良いもので、この研究もうまく行きました。

思い出すと、面白いことがいくつも出てきますが、ECFMGを受験したのも、彼と2人で行きました。研修医時代の夏休み、2人で旅行に行ったのですが、出雲大社で手を合わせていたその時、結婚するといきなり私に告白されまして、奥様は当時の1内科奥村教授秘書でしたが、その時の感激と、彼が今回出雲の国の医学部の教授になることが、何となく重なってきます。

学生時代から、義理・人情に富んだ人でしたが、彼が米国留学中、私がWashingtonで学会があるといえば、飛行場まで迎えに来てくれ、Atlantaであるときは、West Palm Beachで待ち合わせしたり、彼の世話好きな面に十分お世話になっています。私は、彼の結婚式の司会をさせられ、彼の教授昇格の祝辞を書いてますが、彼のお祝い事に必ず顔を出せていただき光栄です。教育に、研究に、さらに上を目指して頑張ってください。

祝 辞

木 村 恒 二 郎



この度、私の勤務する島根医科大学の新眼科学教授として先輩（1回生）の大平明弘先生がご就任されましたので、一言お祝いの言葉を述べさせて頂きます。

遂に福大医学部出身者で初めての臨床の教授が誕生したことになり、大平先生には誠におめでとうございます。これまでに幾多のご苦労があったことと思いますが、念願を達える福大医学部同窓生は本当に素晴らしいと感服いたします。この遠く出雲からの朗報は恐らく同窓会員の方々にも瞬時に浸透し、非常なる刺激を与えたことと推察いたします。私は先生とはこれまでにも何度もお会いしており、先生のご業績、学問に対する卓越した洞察力、温かな人格等々は常に羨望的であり、少々中だるみ気味の私にとりましてはとても良い刺激となっていました。その先生とこの様な近くで一緒に勉強が出来るようになると、全く想像していな

（島根医科大学法医学教室教授・5回生）

かっただけに歓喜しております。島根医科大学の諸先生方が、先生のご業績、人格、その他諸々の事柄を総合判断し、新教授に相応しいと歓迎して下さったことに、後輩としてこれ程心強く、且つ誇りに感じたことはございません。真にこの先輩あって胸を張るといった観があります。

ご着任からまだ一月半程度しか経過していませんが、先生は私の心の中で早くも「良き兄貴」となっています（ご迷惑でしょうか？）。先日、教授会主催の就任パーティーが行われましたが、他の先生から大平先生のお人柄の良さを絶賛され、こっそりとですが愉快な気分で帰路に就いたことを忘れる事はありません。

お互いに良い教室作りと仕事の発展を誓い合い、しばしば内線で会話する今日この頃ですが、私にとっての出雲は益々楽しくなってきました。大平先生、本当におめでとうございます。そして、ありがとうございます。大変簡単ではございますが、お祝いの言葉とさせて頂きます。

最後になりましたが、会員の皆様方の今後の活躍を祈念いたします。

新任教授就任挨拶

「志の高い医療を若い人たちと共に」

佐々木 悠（福岡大学筑紫病院内科第二）



[佐々木 悠教授の略歴]

- S44. 3 北海道大学医学部卒
- S44. 4 九州大学医学部附属病院
臨床研修医（第二内科）
- S46. 4 九州大学医学部附属病院
臨床医員（第二内科）
- S47. 4 福岡赤十字病院医員
(代謝内分泌科)
- S48. 4 福岡大学医学部助手
(内科第一)
- S55. 7 米国テキサス大学
(57. 6迄)
- S58. 4 福岡大学病院講師
(内科第一)
- S63.12 九州大学
健康科学センター助教授
- H6. 6 福岡大学筑紫病院助教授
(内科第二)
- H10. 4 福岡大学筑紫病院教授
(内科第二)

昭和44年、北海道大学を卒業。医師になって、30年近くが過ぎようとしています。卒業後は郷里に戻り九州大学第二内科に入局、臨床研修の後、故勝木司馬之助教授、尾前照雄教授（現国立循環器病センター名誉総長）のもとで臨床内分泌学（甲状腺研究室）の勉強をさせて頂きました。入局当時、尾前先生が“初心を忘れず、病態生理を考える内科医になりなさい”と何度もおっしゃった言葉は現在でも心に深く刻みこまれております。インターン闘争、大学紛争の余波を色濃く感じる時代でもありました。昭和48年、当時九大第二内科助教授であられた奥村恂先生（現名誉教授）と共に創設間もない福岡大学第一内科に移り、15年間お世話になりました。尾前、奥村両先生は私の方向を決められ、支えて下さった恩師であります。創設時の第一内科は、今では想像も出来ないような少人数でしたが、夢だけは大きく、内分泌・糖尿病を中心とした疾患の診療、教育、そして臨床研究に従事、今日に至っています。その間、2年間（昭和55年）、米国テキサス大学のRoger H. Unger教授のもとに留学、肥満と2型NIDDMの発症頻度が世界で最も高いことで有名なPima Indians（アリゾナ州、NIH）を対象にした臨床研究に従事、多くのフェローとの交わりは忘れない思い出であります。平成6年の神戸での国際糖尿病学会では、Pima Studyに参加した各国の仲間達が集まり昔話に花を咲かせました。

昭和63年、人間の科学に少しでも近づきたいと、学位論文の指導をして頂いた川崎晃一先生のお説いもあって、九州大学健康科学センターに移りました。約6年の間、運動生理、臨床心理、精神科など専門を異にする仲間との共同研究、ネパールをはじめとする海外学術調査など臨床の現場とは異なる貴重な体験がありました。

平成6年、臨床への思い絶ち難く、再び福岡大学に戻りました。筑紫病院では内分泌・糖尿病・呼吸器疾患を担当する場を与えて頂き、有富講師、二宮助手、そして新しい医員の人達と小さなユニットですが、何か新しいものが生まれてくる予感もいたします。この厳しい現実のなか、これまでの臨床経験で自分なりに良いと思ったことを後輩の医学生や若い医師に伝えたい、継承していきたいと思っております。そして、少しでも志しの高い医療が出来たらと願っています。

趣味はヒトに言えるようなものではなく、クラシックを聴きながら居眠りすること、雑多な書物を読むことでしょうか？

どうぞ宜しく御指導下さい。

「少子化の今こそ小児科医の本領を」

津 留 徳（福岡大学筑紫病院小児科）



[津 留 徳教授の略歴]

- S44.3 熊本大学医学部卒
S44.4 九州大学医学部附属病院
臨床研修医（小児科）
S46.4 九州大学医学部附属病院
医学部研究生（小児科）
S48.4 九州大学医学部附属病院
医員（小児科）
S51.4 福岡大学病院助手（小児科）
S56.4 福岡大学病院講師（小児科）
S56.8 福岡通信病院出向
（小児科部長）
S60.7 米国バージニア医科大学
客員研究員（61.6迄）
S61.7 福岡大学筑紫病院助教授
（小児科）
H10.4 福岡大学筑紫病院教授
（小児科）

患者中心の地域に密着した高度な医療を理念として筑紫病院は開設されました。診療科のワクを越えた少数精銳主義が、劣悪な環境の中での拠所でした。

ところが、合計特殊出生率が1.39と少子化はさらに加速し、小児科のリストラが求められています。小児科が独立病棟単位として成り立つには、最低35人程度の患者数を常時確保する必要があります。昨年1年間の平均は約15人（平均在院日数約5日）でした。これは筑紫病院のみならず多くの国公立病院でも小児科の病床利用率の悪化が慢性化しています。このように小児医療を取り巻く環境は厳しいものになっています。

打開策ですが、診療基盤の弱い病院では規模拡大戦略は不可能です。都市郊外のベッドタウンで小児人口が多い所では、それなりに出生数も期待できます。しかし産科もなく、夜間休日診療の医療態勢もとられておりません。現在の条件では、ダウンサイ징しかないのが現状です。しかし、平均在院日数が他の診療科と比較して極めて短く、2-3人の入退は日常的な状態です。小児科医の多忙さは変わっておりません。

厚生省が中心となってエンゼルプランと称した少子化社会における総合的な子育て支援策を打ち出しております。しかし、かけ声だけで具体的な施策はとられていないのが現状です。仕事を持つ母親の増加、核家族化による各家庭での育児・教育機能が低下し、学校や病院に依存する傾向が強くなっています。不登校や深刻ないじめの問題もこのような社会背景とは無関係ではないでしょう。

小児科医に対する期待は、少子化とは逆にむしろこれまで以上に強くなっています。逆説的に冬の時代に突入した今こそ、小児科医の本領を発揮すべきだと思われます。成人と同じ物差で小児医療を計れば、少子化はさらに加速するでしょう。子どもを大切にしない社会は、いずれ衰退していくと思います。

教授就任にあたっての私の仕事は、筑紫病院小児科の灯を消さないことだと思っています。BSLの学生・研修医も、福大病院では診れない日常的な疾患を経験しており、卒前・卒後の教育の面での役割も担っております。

最後に、個人的なお話ですが、ライフワークであります。「小児腎疾患と成長障害」の研究を進めて行く所存です。しかし、今や、分子生物学の時代であり、ハードアカデミズムの領域では限界を感じております。そこで、これからは、地域医療や若い人達のお手伝をするソフトアカデミズムの領域でお役に立ちたいと思います。

頭はボケてきましたが、気力・体力は充実しております。同窓会の諸先生、特別会員としてお迎えしていただきありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

「地域との連携を軸に新たなる発展へ」

中山樹一郎（福岡大学医学部皮膚科学）



[中山樹一郎教授の略歴]

- S50.3 九州大学医学部卒
- S50.6 浜の町病院臨床研修医
(皮膚科)
- S51.4 九州大学医学部附属病院
臨床研修医 (皮膚科)
- S52.1 広島赤十字病院医員
(皮膚科)
- S56.3 九州大学大学院
医学研究科修了 (内科系)
- S56.4 九州大学医学部附属病院
医員 (皮膚科)
- S56.7 米国国立衛生研究所
訪問研究員 (58.9迄)
- S59.4 九州大学医学部助手
(皮膚科学)
- S61.2 九州大学附属病院講師
(皮膚科)
- H3.4 九州大学医学部助教授
(皮膚科学)
- H10.4 福岡大学医学部教授
(皮膚科学)

平成10年4月1日付で福岡大学医学部皮膚科教授に就任致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

私は昭和50年九州大学医学部の卒業で同皮膚科教室に入局以来平成10年3月31日まで同医局に勤務しました。研修医時代は市内の浜の町病院や広島日赤病院に出張しました。

研修医を終え九州大学の臨床大学院に進み生化学教室（主任：高木康敬教授）で酵素化学的研究を4年間行い、大学院修了後に米国の国立衛生研究所（主任：Stuart H. Yuspa博士）に留学しました。そこでは皮膚の化学発癌の研究を2年4ヶ月行いました。帰国後九州大学医学部皮膚科教室の助手、講師、助教授を経て平成10年4月に福岡大学に赴任することになりました。私をお呼びいたいた福岡大学医学部教授会ならびに福岡大学理事会に感謝致しております。

私の専門分野は悪性黒色腫、乾癬、神経皮膚症候群（レックリングハウゼン病）です。九州大学の助教授の時は厚生省研究班（研究テーマは悪性黒色腫、神経皮膚症候群の治療法の開発）の基礎研究あるいはその臨床応用を主に行ってきました。この経験を福岡大学病院での皮膚科診療に生かしたいと思っております。

私は市内の中央区に住んでおりますがずっと東区に通勤しておりましたので福岡大学の位置する地域についてはまだ詳しく知りません。

どのような地域から患者さんが福岡大学病院を受診されているのか現在私の頭の中に入力しているところです。またどのような開業あるいは病院の先生方から患者さんを紹介していただいているのかについても少しずつ理解しつつあるところです。そのような先生方と緊密な連携を保ちながら地域住民の方々の皮膚の健康向上に微力ではありますが貢献したいと考えております。

お陰様で私がこちらに赴任してから当院皮膚科外来を受診する患者数が増えました。また地域の開業の先生方（皮膚科、外科、内科）や病院の皮膚科の先生方から入院治療を要する皮膚科患者を数多く紹介していただいております。高次機能病院と位置付けられている福岡大学病院の一翼を担えるような、そして皆様に安心して受診していただけるような皮膚科になれるようさらに努力する所存ですので御支援のほど宜しくお願い致します。

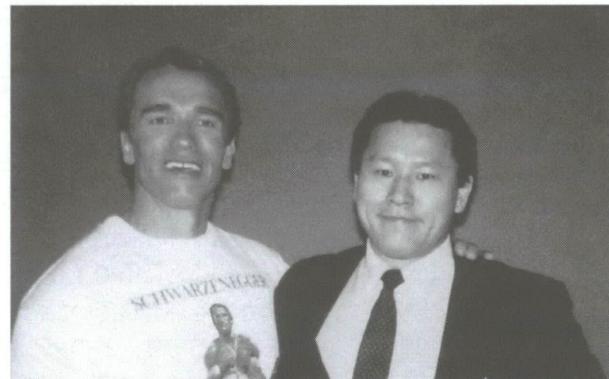
特 別 寄 稿

“卒業生に言いたいこと”

魚返英寛（熊本支部長・5回生）

今回同窓会本部より“卒業生に言いたいこと”と題しての原稿の依頼を受けまして、私自身偉そうな事を言える程の人間ではないのですが、今私が思っていること、また特に若いDr.に思う事を述べることに致します。私は大学時代も決して順調ではなかったし、第二外科に入局してからは徹底した九大二外科方式で教育されましたし、はっきり言って厳しく、忙しかった記憶ばかりで、楽しかったという思い出はありません。しかし12年在局して、実家に帰り開業して、その忍耐、困ったときどう考えたら良いかという点ではその当時の経験が大きく役立つ事が実感出来ているのです。

福大医学部に入った者の殆どは医家の子弟で本来臨床医家として、また医家の継承者としての目的を考えますし、研究者を目指すDr.は僅かでしょう。しかしながら、現在の医療環境は非常に厳しく、医者が余り、少子化により将来の人口はしりすぼみ、基幹病院の要職は有名国立大出身者が占め、そのポジションが



空くことはなく、福大出身者が入局しても一生平か、なっても医長止まりでしょう。地位だけ得ようとすれば、大学で研修した事の何%も發揮出来ない場末の老人病院しかない。開業してもその経営に追われるばかり、地域医療に貢献とは名ばかりのビルクリニックかというところでしょう。先進のアメリカではもう既にボランティア病院は別として、きっちと勉強したチーフレジデント以外は治安の悪い病院しか就職出来なくなっています。実際にポジションがなくアルバイト的生活の医者も増加して来ているそうです。日本でもあと10数年後には医者は定職はなくパート、アルバイト的仕事とか、場合によっては他

の仕事をしなければならない時代が来るという危機感をもって研修すべきでしょう。

福大医出身の医者は心優しく、思いやりがありおおらかな人格で患者さんの身になって、よく診るという特徴を全面に、十分な修練と、そして社会人として常識のある、日本語がちゃんと出来る、弱者への思いやりのある臨床家に成って戴きたいものです。また研究者として大学に残る先生には他大学から来た先生にない、福大出身者としての後輩にたいする真の育てようという愛情、情熱をもって、そして早くメジャーの臨床の教授が出て欲しいものです。そのことが出身大学にその卒業生の研修医が増えて次の世代が残って行く事は言うまでもありません。

歴史のある良い大学はやはり同窓会がでんと構えて充実しています。福大医同窓会がより確固たるものになり、あらゆる点でのバックアップ体制がより充実する為にも卒業生の更なる同窓会への参加、協力が望れます。

最後に私がアメリカ留学時、お会いしたかのアーノルド・シュワルツネガーが言ったことに、“自分の健康管理を出来ない者が他の者の健康をとやかく言う資格はない, No Pain No Gain”と。もっともであります。その理念に基づいて私はあと20年余? 医師としてまた同窓会活動に頑張ってみようと思っていますが、医療に対する情熱を失ったら、速やかに田舎へ退いて農耕民族へと化することでしょう。

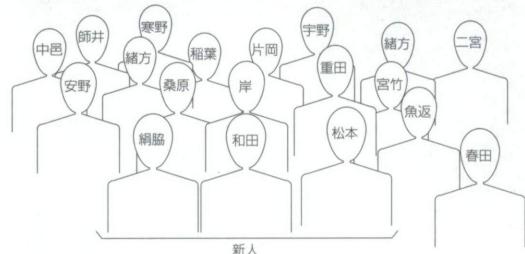
最後にもう一度、自分が福大医出身であるということは一生ついてまわることであり、その同窓会が確固として充実することが、福大医学部が益々発展し良くなる一助となることを再認識して戴きたい。

福岡大学医学部同窓会支部便り

熊本支部

魚返英寛(熊本支部長・5回生)

平成10年5月現在、熊本県下のOBは125名、うち開業医は46名となり、着々と地域に根ざしてきています。平成10年5月16日には支部総会を開催し、講演会では労務管理に関する講演をお願いして医療経営の一助となりました。懇親会では忌筆のない意見交換も出来、また本年度帰熊4名中3名の新人が参加し、盛況のうちに終えることが出来ました。翌17日には有信会熊本支部と合同でゴルフコンペを開催し他業界の先輩諸氏と親交を深めました。10月には天草で定例秋期ゴルフコンペを施行します。各分野での開業医、基幹病院のOBドクターの評判も上々で地域に根ざしてまた一歩一歩、着実に福大出身の輪が定着しつつあります。現在の問題点は支部の財政難であります。年会費徴収率50%であり、慶弔、大学学園祭、各部活、学会、有信会などへの協賛、通信費で収支トントンであります。本年度より年会費の値上げもやむおえなくなりました。また私が支部長として3年目ですが、幹事会や支部総会の案内の返事をきっちりとする人、会に顔を出す人の顔ぶれが一定してきました。熊本では、福岡地区の支部の様に福岡大学に直結していない為、やはり帰属意識が低く、私の不徳の致すところですが、福大で研修もしくは長く働いて帰熊した者以外への期待は薄く、それをどうするかが今もっての課題です。支部で行った意識調査アンケートでも返答率44%でその半数に福大医及び同窓会に帰属意識を持つものの、熊本支部に対してはほぼ全員が応援するとの結果がありました。しかしながら、情熱のある者でコツコツとやって行くしかないのが実状のようです。皆さん忙しく、各々の所属医局やLoyaltyの違いなどあるかとは思いますが、よい意味での結束とネットワークを作り、卒業した福大医学部とその同窓会の発展を願い、支部会がより確固たるものに成る様努力する所存です。



関西支部

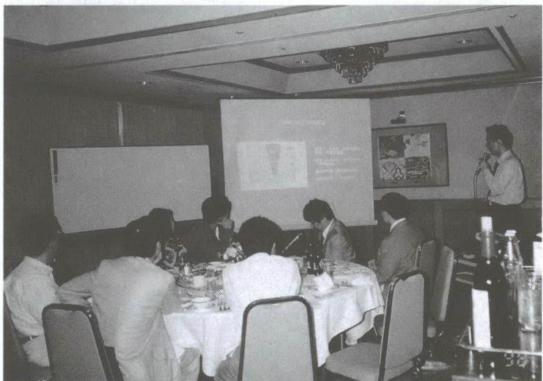
原吉幸(関西支部副会長・2回生)

去る7月26日、大阪のヒルトンホテルにて第2回の関西支部総会が行われました。会員と家族も多数人出席し、20名の参加で中華料理を味わいながら楽しいひとときを過ごしました。今回は福大より形成外科助教授の大慈弥先生をお招きして、形成にかかる講演をしていただき活発な討論も行われました。さらに会長であるS53年卒の中川氏（大阪医科大学病態検査学助教授）による「やさしい免疫学」のショートレクチャ、また「心に残る私の症例」と題してS63年卒の別当、H4年卒の木下氏に苦労した症例を紹介していただきました。

今後の支部活動としては①学生主催の上方忘年会と支部主催の新人歓迎を兼ねた支部総会の年2回開催を継続していく、②総会時に関西に関わりのある同窓会員による講演を盛り込む、③同窓生のみならず、夫婦、家族も一緒に参加してもらえる会にして

● 同窓会支部便り ●

いくなどを決議しました。また福岡大学本学の同窓会である有信会の大阪支部をはじめとする近畿各支部の活動が活発であり、54年卒の原（住友病院眼科）が有信会大阪支部の常任幹事を担当しているので、今後双方の交流を深めていくことになりました。11月の有信会大阪支部総会では原が記念講演を行う予定になっており、また会報である「大阪有信」に医学コラム（仮称）を作り、各科の同窓会諸先生に分担で執筆をお願いすることになりました。先生方には今後講演やコラム執筆などの件でお世話になるかと思いますが、そのときはよろしくお願ひいたします。

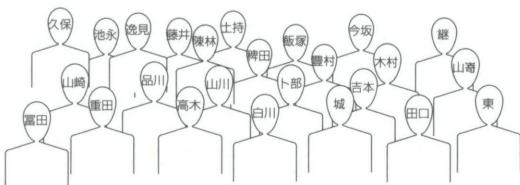


佐世保支部

久保次郎（佐世保支部評議員・8回生） 佐世保支部設立報告

それは1年半ほど前、一通の手紙から始まりました。『評議員を委嘱する』なんじゃこれ？誰かのはからい（たくらみ？）で何度も評議員会にでてしましました。運動部のOB会や出身医局の同門会の繋がりで大学とは関係をもち続けていたつもりでしたが大事な同窓会に全くかかわっていなかったことに気づきました。そもそも佐世保は長崎支部に含まれていたのですが、県北地区として県北だけ勝手に年に2、3回の飲み会をしておりました。長崎支部の会はきちんと催されていて、数年前には1度参加したのですが、佐世保と長崎は同じ県内でありながら交通の便が悪く（高速バス 長崎→佐世保最終20：00因に福岡→佐世保最終22：30）遠ざかっておりました。県北だけ集まつていれば、同窓会活動をして

いるかのような錯覚におちいり自己満足であったというの評議員会に出席して気づき、また同窓会の会費についても疑問をもち（終身会費5万円では年1万円として卒後5年間分）これではいけないと思いました。地理的問題もあり、長崎から独立し県北は佐世保支部として離れようと高木会長、長崎支部長浜崎先生や県北の先生方に相談しましたところ賛同を得まして支部設立することとなりました。10月3日に設立祝賀会を佐世保にて催しました。高木会長、重田副会長も出席していただき、また来賓としては学生時代佐世保会の面倒をみてくれておりました前産婦人科教授の白川先生、放射線科の講師をしておられ、10数年前から佐世保で開業されている城先生もおいでいただき、祝辞を頂戴しました。支部会員28名中21名参加し果てしなく盛り上がり、翌日は子供の運動会ということも忘れ、会長も副会長も未明までお付き合いいただき4次会目は焼肉屋という学生時代のノリで締め括りました。初代会長1回生田口星先生をリーダーに数は少ないですが少数精銳支部として活動していくこうと思いますので、皆様よろしくお願ひいたします。



教室紹介

皮膚科学教室 「入局者も増え、活気に満ちた臨床活動を展開」

清水昭彦（皮膚科・助手）

当教室は、初代主任教授の利谷昭治先生が本年3月に定年退職を迎えられ、4月からは第2代として中山樹一郎教授が九州大学から赴任されました。現在は同じく九州大学出身の古賀哲也助教授以下、講師1名、助手4名、医員2名、他多くのスタッフが教室に在籍しています。特に今年度は久しぶりに福岡大学出身者を含む2名の臨床研修医が入局し、また、他科からのローテーション希望者も迎えることができ、教室全体が若返り活気に満ちています。診療に関しては、紹介患者の増加に伴う外来患者数の増加が著しく、現在4診制にて対応していますが、今後はスタッフの充実に伴い、専門外来を設けることができればと考えています。また、ベッド数が少なく、悪性黒色腫を始めとする皮膚悪性腫瘍、重症薬疹、水疱性疾患などで常に満床のため、植皮を必要としないような手術に関しては、可能な限り外来

にて行うよう心がけています。研究に関しては、教授の専門分野である悪性腫瘍、乾癬、神経皮膚線維腫などに対して、最新の分子生物学的な手技を用いた仕事も若い教室員が徐々に始めており、数年後には国際的な業績が出る事が期待されます。教室行事も、花見会、歓迎会などこれまでのものに加え、プロ野球観戦などの新たなイベントも増え、月に一度は何らかの形で親睦を深めています。臨床、教育、研究いずれに関しても医局員は多忙な日々を送っていますが、徐々にその変化にも慣れ、さらなる発展を目指して努力致しております。医学部同窓会の先生方の御協力を今後ともよろしくお願い致します。



解剖学第二教室 「21世紀に向けた新しいアプローチを開拓」

田 中 陽 子 (解剖学第二・助手)

解剖学第二教室は、昭和47年の福岡大学医学部創設と同時に開講され、以来初代三好萬佐行教授のもとで教育・研究活動を行っています。現在当教室には、三好萬佐行教授（平成9年12月から副学長に就任され、福岡大学・医学部・病院・筑紫病院の運営及び発展のために活躍されています）、上原清子助教授（名古屋市立大学教授である曾爾彊前助教授の後任として平成6年4月に赴任されました）、助手として小柳緑、田中陽子、ロナルド・シュレンペル、田口淳一、教育技術職員として河辺保次、房野たかみ、瓜生恵美子、研究補助員として富永富士子の他、大学院生として江口靖、陳英典、さらに4名の研究生が在籍しています。なお、これまでに多くの同窓会員の方々に助手や大学院生或いは研究生として当教室の研究に参画して頂きましたが、現在では学位取得者も20名以上となり各方面においてそれぞれ活躍されています。

教育面では、主にM2の組織学で人体を構成する各組織・器官の構造や機能についての詳細な講義と、光学顕微鏡を用いた実習が教育職員の協力によ

って行われています。

研究面では、各種動物のリンパ系各器官特に脾臓の微細構造を中心に、呼吸器系・泌尿器系・循環器系各器官における膠原線維及び弾性線維の微細配列や生殖器系・消化器系の平滑筋配列などを、主として電子顕微鏡により形態学的解析を行いながらその細胞生物学的意義や機能についても興味深い研究結果を発表しています。さらに、共焦点レーザー顕微鏡の導入に伴い研究分野の面においても新たなる展開を計りたいと考えています。

今後は21世紀に向けて福岡大学医学部がより充実した教育・研究機関となるように教室員一同さらに一層の努力を傾けて教室の向上、発展を目指して頑張っていく所存です。

福岡大学医学部同窓会員の方々の益々の御発展を中心より祈念し、教室紹介とさせていただきます。



キャンパス便り

水泳愛好会

渡辺 隆（4年生）

我々水泳愛好会は、現在男22名女10名の計32名の部員が、週3回の練習をしております。本学のプールを使用しているため練習時間は、体育学部の練習後2時間しかありません。しかし限られた練習時間の中で充実した練習を行っています。

32名もいる以上、考え方も違えば、泳力にも差があります。しかしそれぞれに目的を持って練習に参加し、大会となれば入賞・自己ベストを目指して全力で頑張ります。

今年は、九山主管ということもあり、昨年より幹部を中心に、一丸となって頑張ってまいりました。そしてその甲斐あり、九山は大会・レセプション共に大成功をおさめることができました。これも一重に部員全員の協力の賜物だと思っております。

水泳部の良さは、1年から6年までの学年を超えた和気藹々とした雰囲気にあると思います。今回更に深くなった水泳部のまとまりを大切にし、部を盛り上げて参りますので、今後とも水泳部を宜しくお願い致します。



弓道愛好会のこれから

田坂 健彦（4年生）

私たち弓道愛好会は昭和61（1986）年に発足しました。歴史の浅い部ですが、顧問である寄生虫学教室助教授・赤羽啓栄先生の下で、現在では部員も男子16名、女子16名と、かなり大きな勢力になりました。

この春には九山大会の主管もなんとか、地区の弓道連盟や諸先輩方のご協力・ご指導をもって、大過なく終えることができました。この場を借りまして、改めて厚く御礼申し上げます。

大会成績も以前は最下位の常連でしたが、ここ数年は九山・西医体とも成績は、ほぼ真中に安定しています。が、男子は得点源だった4年生が大量に引退したため、3年生以下の底上げが急務になっています。

サークル全体の雰囲気は良く、各人が自分の目標に向かって日々練習しています。特に今回の西医体では皆が結束し、それなりの結果を出せたので、素晴らしい思い出になりました。

今回私たちは幹部を引退し、サークルの中心は3年生を始めとする下の学年へと変わっていきました。また新たな気持ちで皆が弓道に取り組んで行ってもらえばよいと思います。

ウインドサーフィン愛好会 新しい出発

牧野太郎（3年生）



我が愛好会は小人数であります。海に行くときは声をかけ合い、一緒にボートに乗り部員どうし技術向上に力をいれています。

活動は主に週末に福間海岸で行っています。部員は兼部している人が多いので全員そろうのは難しいですが、暇を見つけては集まるように心掛けています。小人数の場合でもOBの先生方がいるので、教えていただいている。

年間の活動内容は、4月に九山大会があり新入生歓迎会、そして7月にOBの先生方と福間海岸で合宿を行い11月に追い出しコンパがあります。シーズンは3月から11月です。

今年度で長年お世話になっている先輩たちが卒業し、いなくなるので寂しくなりますがいい雰囲気を残して行きたく思います。

社会医学研究会 社会医学研究会の現状

武岡宏明（3年生）



今年度より社会医学研究会の部長を務めることになったM3の武岡です。

私たち社会医学研究会は、公衆衛生学の教授でいらっしゃる守山先生のもとで、部員約20名で活動しています。具体的な活動内容としては、毎年開催されている医学祭で無料健康相談を行っております。これは、血圧・体脂肪・肺活量etc.を測定するいわゆるミニミニ健康診断です。また、ボランティア活動として、老健施設（久山療育園など）を訪問して、ボランティア活動を行っております。この他にも、部員のほとんどが兼部しており、なかなか全員が集まれないため、先輩や後輩あるいは在学生との間のコミュニケーションをはかるべく、月に一度部会を開いております。

これからも様々な活動を通して、それらによって得た知

識や経験を人生の中で生かしていくような研究会になるよう頑張っていきたいと思います。これからも、OBの方々には、ご迷惑をおかけするとは思いますが、ご指導よろしくお願いします。

音楽研究会

児玉隆志（3年生）

今年の三月を以て、創部以来ずっとお世話になってきた稻益建夫先生の、中村学園への異動に伴い、顧問の交代が行われました。先生には今まで同様これからも、暖かい目で見守っていただきたいと思います。新しく顧問を引き受けさせていただいた生理学第二教室の大場助教授とともに、先輩方の作って頂いたクラブを盛り上げて行きたいと思っています。準愛好会から愛好会への昇格の手続きも済ませ、本格的に組織としての活動をしていきたいと考えています。

来年は、九山の主管を引き受けることになりました。色々と不安はありますが、部員一丸となって盛り上げていきたいと思います。

11月の下旬あるいは12月上旬には、西新のLIVE HOUSE JAJAにて定期ライブを行おうと思っています。先輩方もぜひ後輩の日頃の練習の成果を見に来てください。

ME研究会

山田隆史（4年生）

ME研究会部長の山田です。都合により、2期務めています。顧問は、一昨年より、守田先生に代わりまして、第一生理学教授の坂本先生にお願いしています。

さて、活動状況ですが、現在ではMEというよりは、むしろコンピュータ活用という点に重きをおいて講習会などを行っています。

また、九州学生ME大会に昨年より復帰し、昨年は福大主管ということで、セミナーハウスにて大会を行い無事成功に終えることができました。

現状の問題点としては、全員が兼部であるため、なかなか一堂に集まる機会がないこと、そして、部室の設備が10年前で止まっていることです。欲をいうなら、他大学のように部室まで学内LANが引けたらと思っている次第です。

最後になりましたが、毎年、医学祭においてコンピュータ占いをやっております。機会があれば、一度覗いてやってくださいませ。

福岡大学医学部同窓会資料集

第9期役員名簿

役員名	姓 名	回	選出区分	勤務先
会長	高木 忠博	1		脳神経外科クリニック高木
副会長	林 英之	1	七隈	福岡大学病院 眼科
副会長	重田 正義	2	会長委嘱	新栄会病院 外科
理事	朔 啓二郎	1	七隈	福岡大学病院 内科第二
理事	二見 喜太郎	1	1回	福岡大学筑紫病院 外科
理事	穴井 堅能	2	会長委嘱	引野口循環器クリニック
理事	小金丸 史隆	3	3回	こがねまるクリニック
理事	松本 直樹	3	会長委嘱	松本病院 脳神経外科
理事	柴田 陽三	4	会長委嘱	福岡大学病院 整形外科
理事	田中 伸之介	5	七隈	福岡大学病院 外科第一
理事	松田 年浩	5	5回	松田脳神経外科クリニック
理事	上村 精一郎	6	6回	福岡赤十字病院 内科第三
理事	井上 隆則	7	7回	のぞみメンタルクリニック
理事	武末 佳子	11	筑紫病院	福岡大学筑紫病院 眼科
理事	笠 健児朗	12	12回	笠外科・胃腸科医院
理事	立川 裕	13	13回	福岡大学医学部病理学第二
監事	江下 明彦	2	会長委嘱	(医)江下内科クリニック
監事	大慈弥 裕之	3	会長委嘱	福岡大学病院 形成外科
評議員	福嶋 和生	2	2回	向井外科麻酔科クリニック
評議員	嘉数 徹	4	4回	福岡大学病院 外科第一
評議員	馬渡 秀仁	8	8回	馬渡産婦人科
評議員	城戸 和明	9	9回	天神城戸クリニック 外科
評議員	田中 彰一	11	11回	田中内科医院
評議員	池田 耕一	14	14回	福岡赤十字病院 脳神経外科
評議員	喜多村 泰輔	16	16回	総合せき損センター
評議員	高橋 聰	21	21回	福岡大学病院皮膚科
評議員	平田 和彦	12	七隈	福岡大学病院麻酔科
評議員	古賀 有希	17	筑紫病院	福岡大学筑紫病院 消化器科

役員名	姓 名	回	選出区分	勤務先
評議員	田口 純一	1		福岡 医) 田口外科医院
評議員	増田 登	1		福岡 増田内科小児科医院
評議員	山崎 節	1		福岡 山崎医院
評議員	城崎 洋	2		福岡 白十字病院 外科
評議員	長谷川 伸一	2		福岡 光風会宗像病院老人保健施設宗像アコール
評議員	古賀 哲二	1		北九州 古賀整形外科
評議員	津田 恵次郎	4		北九州 津田小児科医院
評議員	馬郡 良英	1		嘉飯山 杏友会馬郡医院
評議員	中村 卓郎	8		筑後 中村内科医院
評議員	浅倉 敏明	8		筑後 浅倉整形外科医院
評議員	権藤 英資	1		筑紫 二日市整形外科病院
評議員	福岡 英信	2		佐賀 福岡病院
評議員	副島 寛	2		佐賀 副島医院
評議員	浜崎 潤	1		浜崎潤耳鼻咽喉科クリニック
評議員	久保 次郎	8		佐世保 久保内科病院 内科
評議員	魚返 英寛	5		熊本 魚返外科胃腸科医院
評議員	緒方 健一	6		熊本 江南病院
評議員	中村 英助	6		大分 恵愛会中村病院 整形外科
評議員	野田 寛	4		宮崎 野田医院
評議員	山下 瓦	2		鹿児島 山下わたる内科
評議員	野原 薫	3		のはら 小児科医院
評議員	横手 祐司	3		広島 老人保健施設コスマス園
評議員	原 吉幸	2		関西 住友病院 眼科
評議員	辻 祐治	3	会長委嘱	福岡大学病院 泌尿器科
評議員	廣瀬 伸一	3	会長委嘱	福岡大学病院 小児科
評議員	伊東 博巳	7	会長委嘱	いとうクリニック

支部長名簿

支部名	姓 名	回	勤務先
七隈支部	江浦 陽一	1	福岡大学病院 耳鼻咽喉科
筑紫病院支部	二宮 寛	2	福岡大学筑紫病院 内科第二
福岡支部	田口 純一	1	医) 田口外科医院
北九州支部	坂本 博士	2	医) 坂本眼科医院
嘉飯山支部	馬郡 良英	1	杏友会馬郡医院
筑紫支部	権藤 英資	1	二日市整形外科医院
筑後支部	津村 和孝	4	医) つむら眼科医院
佐賀支部	福岡 英信	2	福岡病院

支部名	姓 名	回	勤務先
長崎支部	浜崎 潤	1	浜崎潤耳鼻咽喉科クリニック
佐世保支部	久保 次郎	8	久保内科病院 内科
熊本支部	魚返 英寛	5	魚返外科胃腸科医院
大分支部	鬼木 寛二	1	咸宣会日田中央病院
宮崎支部	野田 寛	4	野田医院
鹿児島支部	山下 瓦	2	山下わたる内科
沖縄支部	野原 薫	3	のはら 小児科医院
広島支部	横手 祐司	3	老人保健施設コスマス園
関西支部	中川 俊正	1	大阪医科大学病態検査学

平成9年度収入支出決算

区分	科 目	9年度予算額	9年度決算額	決算予算比較	決 算 内 訳
収 入	縁越金	6,138,976	6,138,976	0	
	会費収入	4,800,000	4,230,000	△570,000	学生会員:50,000×82人=4,100,000 その他:130,000
	寄付金収入	1,120,000	711,580	△408,420	教授2名:200,000 名簿、パニックマニュアル6名:17,580 その他:494,000
	手数料収入	4,100,000	2,682,727	△1,417,273	紹介手数料:三井110,708 アリコ1,347,807 集金手数料:三井1,224,212
入 預り金収入	雑 収 入	120,000	698,995	578,995	名簿2冊:60,000 パニックマニュアル211冊:633,000 預金利息:5,995
	合 計	16,672,976	14,709,798	△1,963,178	
			0	0	
支 出	給 与	3,376,000	2,545,220	△830,780	給与:2,070,000 賞与:335,200 アルバイト:140,020
	旅 費	1,650,000	1,432,420	△217,580	理事会:147,240 評議員会:655,060 私大連絡会:163,500 役員旅費:175,960 通勤旅費:280,660 タクシー代:10,000
	事務用品費	240,000	176,351	△63,649	
	印 刷 費	1,317,000	1,376,830	59,830	会報:1,106,175 名簿追加訂正:149,625 その他:121,030
	通信運搬費	1,301,000	1,055,701	△245,299	電信電話:124,756 別納料金:771,900 切手葉書代:117,000 受取人払:11,060 その他:30,9,835
	什器備品費	100,000	14,364	△85,636	留守番電話ほか
	事 業 費	4,707,000	3,627,060	△1,079,940	総会費:2,319,060 研究助成金:600,000 学生会員補助:357,000 卒後教育講師招聘費3支部:140,000 国試対策費:50,000 支部祝儀:110,000 行事参加費:30,000 慶弔贈与費:21,000
	会 議 費	1,050,000	682,720	△367,280	理事会:84,892 評議員会1回:322,974 学部長懇談会:157,680 会長懇談会:56,017 研究助成金選考委:61,157
	公租公課	390,000	548,300	158,300	法人県民税:548,300
	雜 費	312,000	411,371	99,371	慶弔費:173,585 最終講義花束:27,300 税理士報酬:31,500 その他:178,986
出 支	預り金支出	400,000	361,920	△38,080	給与源泉徴収税
	予 備 費	1,829,976.0	0	△1,829,976	
	合 計	16,672,976	12,232,257	△4,440,719	
		0	0	0	
	収 支 差 引	0	2,477,541	2,477,541	平成10年度へ繰り越し

特別会計決算

	事 業 積 立 金	生 涯 教 育 基 金
前年度より縁越	80,339,161	2,285,988
本年度増減額	2,000,000	0
本年度受取利息	49,311	328
本年度決算額	82,388,472	2,286,316

平成9年度財産目録 (平成10年5月31日現在)

	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計
I. 資産の部	87,578,370	2,903,582	84,674,788
1. 流動資産	87,152,329	2,477,541	84,674,788
①現預金	87,152,329	2,477,541	84,674,788
振替口座	0	0	0
郵便通常貯金	174,876	174,876	0
郵便定期貯金	7,184,043	1,500,000	5,684,043
普通預金〔福銀〕	593,289	593,289	0
定期預金	78,990,745	0	78,990,745
事業積立金〔福銀〕	0	0	60,325,346
〔シティー銀〕	0	0	16,379,083
生涯教育基金〔福銀〕	0	0	2,286,316
現金	209,376	209,376	0
②有価証券	0	0	0
2. 固定資産	426,041	426,041	0
①有形固定資産(器具備品)	278,257	278,257	0
②無形固定資産(電話加入権)	147,784	147,784	0
II. 負債の部	0	0	0
III. 正味財産	87,578,370	2,903,582	84,674,788
IV. 前年度末財産	91,237,356	8,612,207	82,625,149
V. 増加額	-3,658,986	-5,708,625	2,049,639

平成10年度収入支出予算

区分	科 目	10年度予算額	10 年 度 概 要	9年度予算額	9,10年度予算比較
収 入	縁 越 金	2,477,541		6,138,976	△3,661,435
	費 収 入	4,800,000	学生会員:50,000×96人=4,800,000	4,800,000	0
	寄付金収入	2,000,000	名簿協賛金:4,000×500人=2,000,000	1,120,000	880,000
	手数料収入	3,400,000	紹介手数料:三井200,000 アリコ1,800,000 集金手数料:三井1,400,000	4,100,000	△700,000
	雑 収 入	3,120,000	会員広告:30,000×6+20,000×17+10,000×20=720,000 業者広告:50,000×12+30,000×56=2,280,000 預金利息:120,000	120,000	3,000,000
	預り金収入	122,000	給与源泉徴収税:8,200×12月+11,900×2回	394,000	△272,000
	積立金繰入	4,000,000	事業積立金より繰入		4,000,000
支 出	合 計	19,919,541		16,672,976	3,246,565
					0
	給 与	2,191,000	給与:119,000×12月=1,428,00 賞与:119,000×2回=238,000 アルバイト:5,250×100日=525,000	3,376,000	△1,185,000
	旅 費	1,878,000	理事会:18,000×12回=216,000 評議員会:420,000×2回=840,000 私大連絡会:84,000×2人+60,000×2人=288,000 その他の役員旅費:200,000 通勤旅費:27,000×12月=324,000 タクシ一代:10,000	1,650,000	228,000
	事務用品費	240,000	20,000×12月=240,000 240,000	240,000	0
	印 刷 費	5,276,000	会報:200×3,200部×2回=1,280,000 1,317,000 3,959,000 名簿:1,200×3,100部=3,720,000 封筒代:15×6,400枚+20×3,000=156,000 その他:10,000×12月=120,000	1,317,000	3,959,000
	通信運搬費	1,719,000	電信電話:12,000×12月=144,000 1,301,000 418,000 別納料金:200×1,800通×2回+340×2,000通=1,400,000 切手代:120,000 受取人払:70×500通=35,000 その他:20,000	1,301,000	418,000
出 支	什器備品費	100,00		100,000	0
	事 業 費	2,910,000	研究助成金:600,000 学生会員補助:500×620=310,000 講師招聘費:50,000×12=600,000 学生名簿補助:50,000 国試対策費:150,000 支部祝儀:50,000×3+30,000×10=450,000 行事参加費:30,000×5=150,000 慶弔贈与費:20,000×5=100,000 その他:500,000	4,707,000	△1,797,000
	会 議 費	1,120,000	理事会:200,000 評議員会 1回:300,000 学部長懇談会:200,000 国試懇談会:150,000 会長懇話会:200,000 助成金選考委員会:70,000	1,050,000 390,000	70,000
	公租公課	70,000	法人県市民税:70,000		△320,000
	雑 費	412,000	慶弔費:30,000×5=150,00 最終講義花束:15,000×2=30,000 税理士報酬:32,000 その他:200,000	312,00	100,000
	預り金支出	122,000	給与源泉徴収税	400,000	△278,000
	予 備 費	3,881,541		1,829,976	2,051,565
合 計	合 計	19,919,541		16,672,97	3,246,565
	収支差引	0		0	0

平成10年度事業計画

項 目	摘要	必要経費
会報の発行	年2回発行 1回につき3,200部 印刷代:200×3,200部×2=1,280,000 封筒代:15×3,200×2=96,000 郵送料200×1,800×2=720,000	2,096,000
会員名簿の発行	印刷代:1,200×3100部=3,720,000 封筒代:20×3000=60,000 郵送料:340×2000=680,000	4,460,000
総会の開催	経費はすべて担当回負担	0
研究助成	2～3件 (1件 30万円以下)	600,000
卒後教育	講師招聘費50,000×12支部	600,000
学生会員補助	西医体活動、医学祭に対する補助: 500×620名	310,000
学生名簿の補助	学生名簿作成の補助	50,000
国試対策費	国試諸経費:150,000国試懇談会:150,000	300,000
支部祝儀贈与	支部発足:50,000×3=150,000 支部会参加:30,000×10=300,000	450,000
行事参加	学生行事への参加:30,000×5=150,000	150,000
慶弔贈与	祝儀、弔慰金、見舞金:20,000×5=100,000	100,000
合計		9,116,000
積立金より支出		
奨学金緊急貸与	緊急時における奨学金の貸与 (必要に応じ)	2,000,000

福岡大学病院曜日別外来診療担当医表

		月	火	水	木	金	土
内科	初診	吉田、佐々木、長野、明比、田代 松前、渡辺、飯田、後藤、武田 宮本(漢方・予約制・隔週) 安永	山田、西丸、小野、兼岡 岡田、向野(賢)、廣岡 篠栗、野田、間、秋吉	荒川、内藤、木村 青柳、石橋、辻 浦田、野見山、坪井	山田、田村、川浪 亀井、高橋、司城 瀬尾、安西、一瀬、廣橋	浅野、出石、朔 西田、前田、早田 森岡、高橋	俞 他当番医
	予約	内一 一瀬、長野(午後)	小野、俞、塙上、野見山 田村、一瀬 岡田、安永(午後)	木村、一瀬 前田(午後)	飯田、木村、鈴宮 森岡、瓦、安西、吉田	明比 一瀬、吉田 早田(午後)	司城、一瀬 青柳
	再	内二 笹栗、熊谷 野元、西田 土屋(心外外来)	内藤、小河原 武田	吉田、佐々木 出石、村田、豊島 白井		荒川、向野(賢)、兼岡 石橋、辻、松前、渡辺(寒) 清永(予約制) 向野(義)(針灸・予約制)	佐々木、朔、松永 浦田、野田、田代 池田(隔週) 向野(義)(予約制)
	再来	神経内科(2階) 健康管理(2階)	川浪、亀井 高橋、坪井(午後)		西丸、廣岡、間		西丸、川浪、亀井、廣岡、間
		宗清、廣橋	小川、廣橋	宗清、権藤	中本、平尾	廣橋、嘉悦	小川、後藤(英)
	外科 第一	池田、志村、濱田、真榮城 嘉数、宮崎、田中(伸)、富田、中村		池田、安波、濱田 嘉数、富田(白井)、中村		安波、志村、濱田 田中(伸)、宮崎、篠原	
	外科 第二		白日、岡林、酒井、渡辺 吉永、米田		白日、山下、川原、前川		交代制
	心臓血管外科	松吉	木村、中村(克)、中村(正)	交代制	田代、松吉、岩隈	予約のみ 木村	交代制
	整形外科	初診 再診 専門外来	内藤、柴田、飯田 榎本、蒲原、小嶺 (手再来:副島)	諫山、原、藤原、岩永 毛利、吉村(一)	諸方、諫山、綠川 井上、副島、江本、松浦 リウマチ:石西、井上	石西、梅田、江本 佐伯、金宮、花田 膝:諸方、原 スポーツ:岩本	内藤、柴田、飯田 蒲原、小嶺、古賀 肩再来:柴田、綠川 小児整形:井上
	形成外科	初診・再診 午後 専門外来	大慈弥、江良 特殊小児(12:30~15:00) 大慈弥		谷口	大慈弥、棚橋	谷口、棚橋
産婦人科	初診	瓦林	蜂須賀	金岡	瓦林	蜂須賀	
	再診	本庄、小林	江本、詠田、金岡	井上、牧野	江口、澄井、小林	詠田、牧野	交代制
	午後	腫瘍・コルボ 専門外来	担当医				担当医
	不妊・内分泌	担当医		担当医			担当医
	体外受精	担当医		担当医			担当医
	分娩後1ヶ月検診			担当医			
放射線科	中高年						
	放 射 線 科	新宮、秋田	北川、乳腺:藤光	岡崎		神宮、秋田、東原	
皮膚科	初 診	中山	古賀		古賀	中山	交代制
	再 診	古賀、久保田、渡辺	清水、久保田、江上	野中、松村、川内	清水、久保田、松村	清水、渡辺、江上	久保田(第2・4)、野中、川内
眼 科		大島、加藤、松井 野下(大橋、小沢隔週)	予約再来	大島、林、大里 近藤、山中、大島(裕)	予約再来	林、加藤、峰谷 尾崎、伊藤、木下	予約再来
泌尿器科	初 診	入院中他科可	有吉、辻、北城、種子田	入院中他科可	大島、鍾ヶ江	入院中他科可	田原、松岡
	再 診	予約再来	大島、鍾ヶ江	予約再来	有吉、田原、松岡	予約再来	辻、種子田、北城
耳鼻咽喉科	初 診	加藤、柴田、平田		加藤、江浦、原田		坂田、今村	
	再 診	予約再来	江浦、原田、坂田 今村、小倉	予約再来	坂田、柴田、今村 平田、小倉	予約再来	江浦、原田、柴田、平田、小倉 (腫瘍)
小児科	初 診	満留、演本 山口、安元	満留、廣瀬 喜多山	演本、山口 柳井	廣瀬、安元 安元	柳井、新居見 新居見	廣瀬、喜多山 新居見、安元
	再 診	(発達・心理)藤川	(血液)丹生、柳井、赤松 (リウマチ・膠原病)廣瀬	(腎臓)津留、新居見 (小児喘息・アレルギー)	(発達・心理)藤川 (循環器)演本	(神経)	
	専門外来			13:30~15:30	松本、諸岡	満留、小川、安元	
	午後専門外来		(感染・免疫)山口	(感染・免疫)	13:30~15:30 山口	(内分泌・代謝)喜多山、伊藤 (頭痛)満留	(発達再来)小川 (内分泌・代謝)喜多山、伊藤 (頭痛)満留
脳神経外科		朝長、福島、岡 相川、木村、平川		朝長、福島、岡 相川、木村、平川		朝長、福島、岡 相川、木村、平川	
精神神経科	初 診	早稲田、米澤 佐々木(予約制)	西園、佐々木	福井、米澤 佐々木(予約制)	堤、村田、伊藤、鈴木	西園、福井	堤、早稲田
	知能心理テスト(予約制)			皿田			
専門外来(予約制)	福井、伊藤、佐々木、鈴木	福井	堤、早稲田、佐々木	早稲田、米澤	堤、三野原、米澤、佐々木、鈴木	福井、三野原、佐々木、鈴木	
	麻酔科(ハイインクリニック)	壇、平田		壇、平田		壇、比嘉、平田	
歯科	初 診	都、喜久田、古賀 内藤、豊福	予約再来	喜久田、古賀、豊福	予約再来	都、喜久田、古賀 内藤、豊福	予約再来
	口腔外科	午後予約再来		午後予約再来		午後予約再来	
リハビリテーション科		岩崎	蔚	岩崎	蔚	岩崎	蔚

福岡大学筑紫病院曜日別外来診療担当医表

		月	火	水	木	金	土	備考
内科第一・内科第二・消化器科	内科第一	広木、大田、八杉	広木、藤原	三原	諸江、宮脇	広木、宮脇	ローテーション	内科第一はすべて循環器
	内科第二		(糖内)佐々木 (呼) 有富	(糖内)二宮			(糖内) 加来 (呼) 有富	糖内:糖尿・内分泌 呼:呼吸器
	消化器科	(消)松井、真武、小川 (肝)坂口(正)、光安	(消)八尾、櫻井、古賀、白井 (肝)鳩野	(消)宇野、永江 (肝)戸原、宮嶋	(消)白井、佐藤 (肝)中林、尾石(弥)	(消)津田、大田 (肝)植木	(消)平井、和田、宇野、西村、 島崎 (肝)田中(正)	消:消化管 肝:肝・胆・脾
	予約 再来	AM PM	(循)宮脇、大田、八杉 (糖内)二宮	(循)広木 (糖内)二宮	(呼)有富	(循)井原 (糖内)佐々木 (肝)植木	(循)諸江、三原、 三好	循:循環器 糖尿病教室(火・金)
			(循)大田 (糖内)二宮	(循)広木、藤原 (糖内)二宮	(循)三原 (糖内)二宮	(循)井原 (消)白井、佐藤 (肝)中林、尾石(弥)	(循)三原(宏) (糖内)佐々木 (消)津田、大田、 小川、白井	
		AM PM	津留、大府、山戸	山戸、原口	大府、西本	津留、大府、田中	津留、山戸、東	大府、山戸
		AM PM	東	田中	山戸	西本	原口	
小児科	専門	AM PM	(低身)津留 (腎・夜尿)津留、 西本				(低身)津留 (腎・夜尿)津留、 西本	ア:アレルギー 藤川:第2水 ローテイド:第3水 柳井:第2水 松本:第2金 井上:第4金
外科	AM PM	立石(修)、河原	有馬、二見	古藤、長谷川	立石(訓)、稻田	有馬、二見	東、渡辺	
			二見		稻田			
	整形外科	松崎、有永	塙田、有永	松崎、池田	塙田、入江	池田、佐藤	ローテーション	
脳神経外科	AM PM	上野	ローテーション	田中、中山	ローテーション	田中、中山	ローテーション	
		上野		中山		中山		
泌尿器科	AM PM	予約再来	平塚、竹内	予約再来	平塚、石井	予約再来	石井、竹内	
			竹内		石井			
	眼科	加藤、有田、村川	予約再来	向野、武末、仲西、有田	予約再来	武末、加藤、村川、仲西	予約再来	
	耳鼻咽喉科	森園、池田、近藤	手術日	森園、宮城、近藤	手術日	池田、宮城	特殊再来	

医局長・医長名簿

※(○内の数字は卒業回) 98.11.1現在

診療科	医局長	病棟医長	外来医長
[福大病院]			
内科第一	司城博司	野見山理久 (6西)	前田和弘 (3)
内科第二	浦田秀則 (3)	松永彰 (3) (6東) 豊島秀夫 (8) (6南)	田代英一郎 (7)
神経内科・健管	間英二	(神経)坪井義夫 (6北) (健管)小川健一 (7) (7F)	廣岡満 (5) 廣橋紀正 (12)
精神神経科	早稲田隆 (9)	石井久敬	米澤利幸 (1)
△(デイケア)			伊藤正訓 (10)
小児科	山口覚 (5)	松本一郎 (10)	安元佐和 (7)
外科第一	嘉数徹 (5)	田中伸之介 (5)	中村浩敏 (11)
外科第二	岡林寛	酒井憲見 (8)	米田貴 (9)
整形外科	緑川孝二 (6)	井上敏生 (12)	石西靖 (1)
形成外科	形谷口靖 (6)	棚橋慎治 (12)	谷口靖 (1)
脳神経外科	木村豪雄 (9)	山本正昭 (7)	相川博 (1)
心臓血管外科	岩隈昭夫 (8)	中村正直 (10)	松吉哲 (2)
皮膚科	清水昭彦 (5)	野中由紀子 (1)	久保田由美子 (1)
泌尿器科	田原春夫 (5)	松岡弘文 (8)	鐘ヶ江重宏 (11)
産婦人科	日本庄考 (10)	小林秀樹 (4) (3東) 江口冬樹 (6) (3北)	牧野康男 (8)
△			
眼耳鼻咽喉科	加藤整 (5)	松井孝明 (11)	近藤寛之 (1)
放射線科	坂田俊文 (10)	柴田憲助 (9)	原田博文 (1)
麻酔科	北川晋二 (1)	秋田雄三 (1)	東原秀行 (6)
歯科口腔外科	櫻木忠和 (3)	平田和彦 (12)	堀浩一郎 (13)
病理部	孟晶		豊福明 (1)
臨床検査部	高田徹		
輸血部	伊藤晃 (11)		
救命救急センター	後藤英一 (2)	半田耕一	
[筑紫病院]	武末佳子 (11)		
内科第一	代表: 宮脇龍一郎	諸江一男 (3)	三原宏之 (9)
内科第二	二宮寛 (2)	代表: 有富貴道 (3)	二宮寛 (2)
消化器科・内視	津田純郎 (6)	眞武弘明 (8)	代表: 櫻井俊弘 (1)
小児科	大府正治 (2)	山戸康司 (10)	大府正治 (2)
整形外科	古藤剛 (7)	稻田繁充 (8)	河原一雅 (12)
脳神経外科	有永誠 (8)	有永誠 (8)	池田正義 (1)
泌尿器科	中山義也 (9)	中山義也 (9)	中山義也 (9)
眼科	石井龍 (5)	竹内文夫 (14)	石井龍 (5)
耳鼻咽喉科	武末佳子 (11)	加藤博彦 (12)	加藤博彦 (12)
放射線科	宮城広幸 (7)	宮城司道 (9)	池田研 (1)
麻酔科	水城透 (3)		
病理科	溝口幹朗 (6)		

教育職員人事

(98.4.2~98.10.1)

※○内の数字は卒業回

区分	所属	資格	氏名	日付	摘要
退職	内科第一	講師	久野修資	98.9.30	村上華林堂病院
	内科第一	講師	岡部信郎	98.9.30	
	内科第二	講師	岡部真典	98.9.30	福岡済生会病院
昇格	筑紫内科第一	助教授	諸江一男 (3)	98.10. 1	
	救命救急医学	講師	後藤英一 (1)	98.10. 1	
	救命救急センター	講師	谷川攻一	98.10. 1	
採用	公衆衛生学	助教授	福島哲二	98.10. 1	
	筑紫整形外科	助教授	塙田悦仁	98.10. 1	
	薬理学	講師	上野伸哉	98.10. 1	
	内科第一	講師	青柳邦彦	98.10. 1	

平成11年度 福大医学部同窓会 研究奨励賞募集要項

対象：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由
(医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による(支部長推薦を要す)

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会事務局

Tel.092-865-6353 Fax.092-865-9484

締切：平成11年4月30日

賞状・賞金：1件30万円を限度とし、奨励賞(優秀論文賞を含む)3件程度

発表及び表彰：平成11年7月上旬、第18回同窓会総会席上

その他の
①受賞者は研究報告書を提出する事(研究は2年以内に終了)
②受賞者は研究成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事
③申請書は同窓会事務局に請求の事
④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績(原著、著書、症例報告学会
発表)、研究の独創性・重要性を十分に書く事

【註】従来「研究助成金」の名称で募集していましたが、今年度から「研究奨励賞」と名称が変更されました。

編集後記

この号から鳥帽子会報が少し変身しました。

初めて出席した先の評議員会で、「鳥帽子会報はいつもごみ箱に直行している」という発言があり、忙しい中編集作業にたずさわってきた人達の目の前で結構厳しい意見が出るもんだとのんきに驚いておりました。が、気がつくと今度は自分がその俎上に乗せられる立場になっていました。雑誌というものは、どんなに立派に作っても興味のない人には紙切れにしか過ぎず、いくら安直に作っても読む人には読まれるものです。しかし、一人でも多くの会員の方に活動内容や現状をお知らせするという同窓会報の役割がある以上、何らかの改善が必要と考えるに至りました。今回はまだ内容の改革にまでは及んでおりませんが、今後はみなさんのお力を借りて、少しづつ新しい企画を実現したいと思っています。玉稿を頂戴したみなさん、ありがとうございました。数多くの細かい注文に快く応じてくださったロータリー印刷の鶴さん、ありがとうございました。

黒子に徹して煩雑な実務を引き受けたださった同窓会室の池田さん、ありがとうございました。(文責 松田)

編集委員：松田 年浩(5回生)、武末 桂子(11回生)、立川 裕(13回生)

烏帽子会会報第25号

発行日 平成10年12月1日

発行人 高木忠博

編集人 松田年浩

発行所 〒814-0180

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話.092-865-6353 (直通)

092-801-1011 (代表)

内線 3032

FAX.092-865-9484

印刷所 ロータリー印刷株